

では、警察や交通指導隊、交通安全母の会、交通安全協会などの関係機関と連携を図りながら、年間を通じた季節ごとの交通安全運動をはじめ、日々の街頭指導および広報・啓発活動、交通安全教室などを実施し、特に高齢運転者の事故防止や死亡事故ゼロ日の継続など、交通事故のない安全な町の実現に向けて取り組んでまいります。

災害時における要援護者への支援につきましては、避難行動要支援者避難支援計画に基づき、関係機関や民生委員・児童委員、地域団体等の理解と協力を得ながら、要支援者名簿の更新と見守り支援を行い、併せて個別支援計画の策定に取り組んでまいります。

また、災害時における災害ボランティアセンターの設置に向けては、社会福祉協議会と連携し、災害ボランティアへの対応などに備えてまいります。

情報セキュリティ対策につきましては、町が保有す

る情報資産の機密性、完全性および可用性を維持するため、町セキュリティポリシーに基づき、実施してまいります。

住民情報系システムにつきましては、一関市、陸前高田市、釜石市、住田町、一関地区広域行政組合と本町の6団体で締結した自治体クラウド協定により、情報システム標準化・共同化を推進し、自治体行政のデジタル化に向けた基盤整備を進めてまいります。

国際リニアコライダーの誘致

国際リニアコライダーの誘致につきましては、関係機関と連携を図りながら情報収集・意見交換を行い、普及啓発に努め、政府による日本誘致の方針決定を促すなど、近隣市町村と共に積極的に取り組んでまいります。

平泉の文化遺産の保存と活用

平泉の文化遺産の保存と活用につきましては、世界

遺産登録10周年の節目にあたり、改めて平泉の価値の理解、理念の普及、後世へ引き継ぐ意識の醸成を推進してまいります。

遺跡調査、史跡整備につきましては、平泉遺跡群調査整備指導委員会の指導のもと、無量光院跡の庭園整備と、観自在王院跡の内容確認調査を着実に実施してまいります。

教育の振興

教育の振興につきましては、平泉町教育大綱に掲げる「一人ひとりが輝き、幸せを実感できるまちの実現」を目指し、家庭・学校・地域・行政が連携し、世代を超えて学び続けるまちづくりを推進することによって、さらなる教育の発展に努めてまいります。

「GIGAスクール構想」による新しい時代の学びの実現や、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）による「地域と共にある学校づくり」を目指す

共に、「平泉学」を基軸とした多くの町民が地域について学び合う機会の拡充を図り、郷土愛の醸成と人材の育成に取り組んでまいります。

おわりに――

現在、依然として新型コロナウイルス感染症が収束せず、変異種の発見など新たな不安も広がっているものの、今後ワクチンの接種が本格化することによって、希望が見えてくるものと思っております。

本町といたしましても、令和2年2月28日に設置した「新型コロナウイルス感染症に伴う危機対策本部」をこの間60回以上開催し、国や県からの情報共有などに努め、感染対策の徹底を町民に呼びかけると共に、補正予算を編成しながら緊急経済対策等を実施して参りました。引き続き、感染状況に応じた支援策を講じると共に、ワクチン接種を全力で進めて参りますが、一

日も早い収束を迎えるためにも、どうか町民の皆さま一人ひとりが徹底して感染防止に取り組んでいただきますよう、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

令和3年度は、全行政区での地域懇談会の開催など、コンパクトな町の強みを生かしながら、町政をより身近に感じられるものにしてまいります。この直接対話こそが、持続できる平泉を創るものだと思信しておりますので、今後も忌憚なく、たくさんのご意見を

どをお寄せください。今回、提案いたしました令和3年度平泉町一般会計予算・特別会計予算・企業会計予算並びにその他の議案につきまして、議員各位のご理解とご協力、そして町民の皆さま方の町政へのご参画を心からお願ひ申し上げます。私の施政方針の表明といたします。

令和3年3月8日

平泉町長 青木 幸保

令和3年度教育行政方針演述

家庭・学校・地域・行政が連携し、世代を超えて学び続けるまちづくりを推進し、町教育の発展を目指す

本日、ここに令和3年平泉町議会定例会3月会議が開催されるにあたり、令和3年度の教育行政施策について所信の一端を述べ、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

はじめに――

昨年年明け以来、全世界規模で拡大の一途をたどってきた新型コロナウイルス感染症は、国内においてもいまだに収束の道筋が見えない状況が続いております。岩手県においても昨夏に感染者が発生すると数か月後にはクラスターによる感染が拡大し、とどまることなく新年を迎える事態となっております。

町教育への影響も大きく、学校においては昨年3

月中の休校措置、そして令和2年度に入って運動会、学習発表会・文化祭の縮小開催、修学旅行の時期・訪問地変更など、対応に追われた1年でした。社会教育においても各種事業の中止や施設利用停止など町民の皆さんにご迷惑とご不便をおかけしてまいりました。

そのような現状のなか、これからの教育は、コロナ禍に見舞われる以前に戻るのではなく、この経験を踏まえて、「何を残し、何を削り、何をこそ為すべきか」を語り合い、知恵を出し合い、この社会の急激な変化の中での不易と流行を探っていく営みが求められております。

地域との協働による学校

づくりや持続可能な開発につながる教育、そして、先端技術を活用した学習の導入といった教育活動への取り組みを進めるとともに、東日本大震災被災の教訓をもとに復興・防災教育を継続していかねばなりません。また、大きな社会問題となっているネット依存や命に関わるいじめ問題、そして、経済格差拡大の中での学力保障など、山積する教育課題の解決を図っていき

たいと思います。そして、来年度には待望の新社会教育施設が完成します。あらたな生涯学習拠点となる場をどう活用していくか、町民の皆さんと共に熟議していく1年とした

いと考えます。世界文化遺産の地平泉における教育の基本は、先人が紡いできた歴史を踏まえ、平和で持続可能なまちづくりのための学びであります。特に町教育の軸としてきた平泉学の取り組みにおいて、学校教育にお

ける「過去に学び、今を見つ

め、未来を考える学習」としての系統的な学習がより深化してきていますが、地域で学びあう全世代型学習も、現代的課題を考えあう場に発展させていきます。

本年度も「平泉町教育大綱」に掲げます「一人ひとりが輝き、幸せを実感できるまちの実現」を目指し、家庭・学校・地域・行政が連携し、世代を超えて学び続けるまちづくりを推進し、さらなる町教育の発展を目指してまいります。

重点施策

以下、教育行政各分野の重点施策の概要について申し述べます。

生きる力を育む学校教育の推進

「確かな学び（知）」「豊かな心（徳）」「健やかな体（体）」のバランスのとれた教育を展開し、平泉の子ど

も、なえた児童生徒の育成を目指していくために、以下の3点を重点施策として推進してまいります。

1 確かな学びの保障

学習指導要領の改訂に基づいて、学校は、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「子ども一人ひとりの発達をどのように支援するか」「何が身に付いたか」「実施するために何が必要か」の6点にわたって教育計画を「カリキュラム・マネジメント」の視点をもとに改善し、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指してまいります。

教員が指導の改善を図り、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができる力を育めるよう「学習評価」を充実させながら、持続可能なまちづくりの担い手として、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう指導してまいります。英語教育の充実では、グ